

浄心寺だより

発行

浄心寺門信徒会

郵便番号714-0081

笠岡市笠岡2065

電話(0865)62-2623

FAX(0865)62-2595

振替01260-9-13760

<http://joshinji.suki-ari.net/>



食前のことば

多くのいのちと

みなさまのおかげにより

このごちそうを恵まれました

深くご恩を喜び

ありがとうございます!!

ごあんない

親鸞聖人の
芳躅を
たたえ

宗祖

報恩講

ご法話 三原市・浄楽寺 栗原 一 乗師

十二月三日(土) 十三時三十分

※正午よりお斎(とき)を呈上いたします。
どうぞお席にお着きください。

浄土真宗の御開山・親鸞聖人(一一七三〜一二六二)は、私たちに、この世に人間に生まれてきた意味と、この上ない喜びをもって人生を生き抜く力を与えてくださいました。このご恩に報いるため、聖人のご苦勞に深く感謝し、たたえ、阿彌陀如来の教えを自分のものとし、さらに多くの人々に念仏の輪が広まるよう勤める行事が報恩講です。

聖人は阿彌陀如来に信じ順う者は仕合せになり、またたとえ疑い、そしる者も真剣ならそれが縁となるであろうといわれ、反対する者の仕合せまで願われたお方です。

今年も報恩講をお迎えするに当たって私たちは、私たちの先祖がこの尊い教えによって強く明るく生き抜き、深い自己反省と、するどい社会批判から、生命尊重と世の不正に抗する活動の意欲を持ち続けていたことを思い起こし、自分と社会のため聖人の教えをしつかり聴聞することに努めたいものです。その仏法を聴聞させていただくことこそ今を生きる者の務めでありましょう。

鷹谷俊昭著『月ごとのことば』転載

「み法を味わって」(三)

報恩

秋季彼岸会 永代経法要



九月二十一日、午後一時半より秋季彼岸会および門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。前日に台風が通過しましたが当日はおだやかな日となりました。

となりました。

一同で阿弥陀経をお勤めの後、ご法話を拝聴。ご講師は広島県世羅町、圓超寺の法正映真師でした。

まずは「彼岸」という行事の由来をお話しされました。お彼岸という習慣はインドにも中国にもないもので、日本独特のものです。語源的には「彼岸に到る」という意味のインド語、「パーラミター」に由来します。「さとり」の世界に到達する」という意味ですが、この語には「(さとり)に達する修行を」完成する」という意味もあります。

修行の完成には六つの完成(六波羅蜜)が必要だとされます。布施、持戒、忍辱・・・などです。しかし、多くの人間にはこれらを完璧に完成することは無理なことです。親鸞聖人はそのことに気づかれ、不完全な私たちが救われてゆく道を、阿弥陀仏に求められました。阿弥陀仏は煩惱に満ちたわたしたちを、ありのまま摂(おさ)め取ってくださる仏さまです。

彼岸会に私たちが仏法に出会えるのは、身近な故人がご縁になる場合が多いです。普段のくらしの中では考えてみる事ができないことにも、思いを巡らせることができるのがこうした法座です。故人に感謝しながら、いのちの行方に思いを馳せてみましょう。

法物 虫干し法座



当山の法物虫干し法座が、七月十四日十三時半より勤まりました。

平成29年年回表

回忌	往生年
1周忌	平成28年
3回忌	平成27年
7回忌	平成23年
13回忌	平成17年
17回忌	平成13年
25回忌	平成5年
33回忌	昭和60年
50回忌	昭和43年

該当のお方には別途お知らせいたしますが、遺漏することもありますので、ご留意、ご確認の上、ご法要の日を早めにご相談ください。

例年通り、当寺に伝わる法宝物が本堂内で虫干しされました。

『讃仏偈』をお勤めの後、前任職が当寺にまつわる「中国真宗念仏行者御形見名号略縁起」を拝読。親鸞聖人の命で中国地方に下った明光上人がもたらしたお名号のいわれが記されています。

ご法話は呉市の西岸寺、長岡正信先生でした。

「五計」についてのお話しでした。日常生活のうえでは五つの計画、設計が大切です。人生についての生計、家族についての家計、歳のとり方の老計、死の迎え方の死計、これら四つをどういう抛り所のもとに行うかの心計です。世俗では経済(お金)を抛り所としますが、親鸞聖人はお念仏ないしは仏教の智慧を抛り所にするように説かれました。

ある和尚さんが小僧に、一輪の見事な花を、千宗旦のもとへ届けさせたそうです。ところが小僧は途中で花の首を折ってしまします。小僧は困りますが花を届けます。すると、宗旦は和尚と小僧を茶室に招待します。和尚は一步部屋に入るなり、感嘆の声を上げます。そこには花の落ちた茎が一輪挿しにあり、その下に花が置かれていました。花の無常が見事に表現してあったのです。小僧は落ちた花に価値はないとか、和尚さんに怒られるという損得勘定だけで判断していましたが、宗旦は見事に花の本質を表現して見せたのです。このような智慧を抛り所にした。このように聖人は説かれたのです。

時折激しい雨に見舞われましたが、最後には雨も上がり、一同無事帰途につかれました。

本願寺
第25代 専如門主

云々奉告法要はじまる



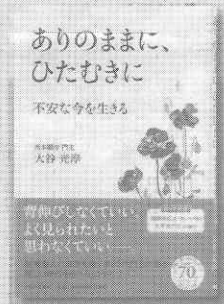
2016年10月10日付 本願寺新報より

標記の慶祝法要が、いよいよ十月一日より始まりました。
法要は平成二十九年五月三十一日まで十期にわたって修行されます。

当寺は近隣の四ヶ寺と合同で、すでにご案内のように平成二十九年三月三十一日(金)に参拝いたします。すでにお申し込みいただいたお方もいらつしやいます。どうか、こぞつてお参りいただきますようお願い申し上げます。

話題 ご門主が初のご著書

専如ご門主が初めてのご著書『ありのままに、ひたむきに—不安な今を生きる』を、PHP研究所から刊行されました。
ご門主は難しい時代を生き抜くヒントになるようにと、これまでご縁の薄かった方々に向けて、浄土真宗のみ教えをもとにした生き方、考え方を語りかけています。



◎B6変型判160ページ、本体600円＋税
◎本願寺出版社への申し込みは注文専用フリーダイヤル

0120-464-583

またはセブンイレブンの店頭にもあります

本山で退任式

第二十八回住職・開教使退任式が九月九日、本山でおこなわれました。
初めに、ここ一年のうちに往生

された現職住職と開教使の追悼法要が営まれました。式典ではご門主がお言葉を述べられ、石上総長から記念品が贈られました。次いで出席者の代表が「これからも念仏弘通に精進してまいる所存です」とお礼を述べました。また、

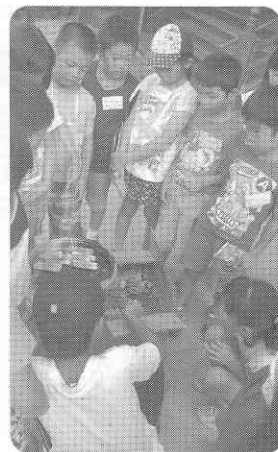
サマースクール開催



恒例のサマースクールが七月二十一、二十二日に開かれました。今年は申し込みが殺到し、締め切り前に参加者を締め切らざるをえない、うれしい事態となりました。

参加の小学生は最多の九十七名となり、備後教区内の若手僧侶三名が指導、食事等は当寺婦人会のご協力をいただきました。
仏前での作法を習った後は、Tシャツにマジックで思い思いの絵柄を描いてオリジナルTシャツを作ったり、班に分かれてゲームをしたりと楽しい一泊二日を過ごしました。

午後からはご門主夫妻、前門ご夫妻が臨席され「感謝のつどい」が行われました。
同式は昨年度に住職または開教使を退いた僧侶などが対象で、帯同者や遺族を含む二〇五名が出席。当寺の前住職、前坊守も参列しま



今年は燻製づくり挑戦。子供たちで買い出しに行き、チーズやベーコン、バナナなどを桜チップでいぶしました。子供たちはもちろん、大人も興味津々。簡単に絶品の燻製が出来上がりました。
夜にはキャンプファイヤー、希望者は建物内で「暗夜行路」、翌日には街中に繰り出して「ウォークラリー」をしました。

はじめてお寺に泊まる子も多く、不安もあったようですが、最後には笑顔で解散しました。



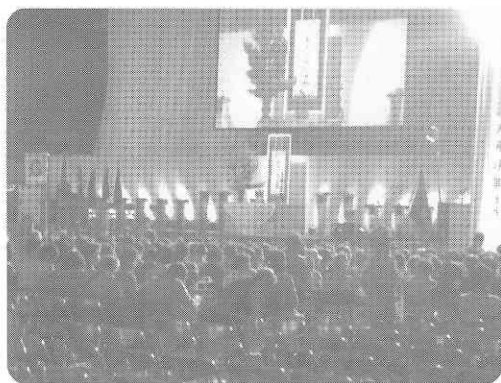
した。
対象者の最高齢は九十九歳。在職最長は六十三年の方がおられました。
因みに当寺の前住職は在職三十二年でした。

仏婦コーナー

アンカノ園

第六十回 中・四国地区

仏教婦人会大会に参加



コンベックス岡山 会場の様子



八月二十四日(水)、ご門主ご臨席のもとコンベックス岡山にて開催されました。大会テーマ「ご縁をひろげよう」からあなたへ」

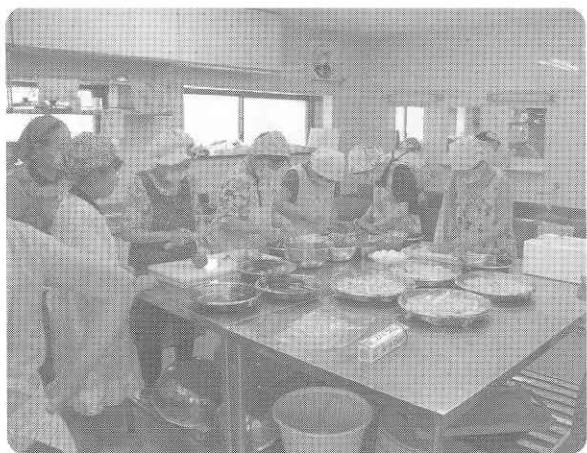
参加総数三千余名。浄心寺からは十名。前日と当日にわたり伊藤朋子さん、榎平敬子さんには会場にて準備から後片づけまで大変お世話になりました。

開会式後、天岸浄圓先生(仏教婦人会総連盟講師)による記念講演がありました。講題「自信教人信」のこころ「分かり易い言葉でユーモアたっぷりにお話したいだき、あつ!という間の一時間でした。

昼食後は岡山龍谷高校太鼓部によるダイナミックで力強い演奏に拍手喝采でした。また、同高校の専務理事・中村好孝先生によるお話は、教育者としての情熱と子供たちへの愛を感じました。



笑顔の参加者



「仏教讃歌を楽しもう」のコーナーでは、五人の音楽家の方たちと楽しいひと時を過ごしました。会場内には物品販売会場も用意され、遠くから参加いただいた方々のお土産として大盛況でした。色々なご縁に感謝するとともに大会テーマ「私からあなたへ」と伝えられるよう努力したいと思う一日になりました。

サマースクール協賛

七月二十一日・二十二日、小学生を対象にサマースクールが開催されました。元気いっぱいの子供たちのお世話ができ暑さもふっ飛ばす二日間でした。

清掃奉仕

九月十八日、秋季彼岸会をひかえ本堂・境内の清掃をしました。早朝より五十名参加。ご協力ありがとうございました。



報恩講

お斎のご案内

12月3日(土)正午から
聚園和室にて

お斎とは仏事に出席される食事のことです。今年も仏教婦人会のみなさんが丹精込めて作ってくださいます。精進料理で「とてもおいしい」と好評です。ご遠慮は無用です。大勢のみなさんと会食いたしましょう。

門信徒の広場

「備中里組総代連絡協議会総会」

および

「御同朋の社会をめざす運動」

推進協議会

開催

七月十日十一時より備中里組総代連絡協議会総会が、引き続き十三時より「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」推進協議会が、当寺にて開催されました。

午前の総会には当寺からは内海義郎、藤井祐三、長安圭一の各氏

地区委員さん交替

旭が丘地区

旭が丘地区委員としてお世話していただいております

船越 渉さん

が、高齢のため、辞任を申し出になり、このたび新たに

明石 康夫さん

が後任を受けてくださいました。船越さんの永年のご苦勞に深く感謝申し上げます。

また、明石さんには、どうかよろしくお願い申し上げます。



班分け発表する斎藤裕さん

が出席、総代連絡協議会の決算、予算などを審議しました。

午後の協議会では当寺より先の三氏と斎藤裕氏、新旧住職、新旧坊守が出席し、「現在の身元調査の実態と寺院の個人情報取り扱いについて」をテーマに話し合いをしました。講師は三次市、西善寺の小武正教師でした。過去帳や墓石に記載された情報、あるいは寺院で作成した名簿などの取り扱いについて、僧侶と門信徒が同座で忌憚のない意見を交わしました。

来年度の研修旅行

来年度の研修旅行は久々に京都の大谷本廟を予定しております。分骨をご希望の方、すでに納骨済みで参拝をご希望の方、あるいはこれまでに本廟を参拝されたことのない方、どうぞふるってご参加ください。

詳細は追ってご通知しますが、来年六月ごろの予定です。

やさしい仏教講座

平成29年の予定

はや開講六年になります、新住職による「やさしい仏教講座」の来年の予定です。『高校生からの仏教入門』に沿って進めています。現在は「親鸞さまの生涯」です。どうぞお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

- ◎ 第43回 2月9日(木)
- ◎ 第44回 4月13日(木)
- ◎ 第45回 6月9日(金)
- ◎ 第46回 8月17日(木)
- ◎ 第47回 10月1日(日)
- ◎ 第48回 12月9日(土)

毎回午後7時30分より9時まで
解説 ● 津田明雅住職
会場 ● 浄心寺礼拝堂(イス席)
聴講料 ● 不要

ありがとう
ございました

◎ 電熱式缶ウオーマー

渡辺 博さん(浜田)

◎ 墓参者用ひしやく 20本

榊平智恵子さん(川南)

◎ 墓参者用ほうき

山本 勝さん(神島外浦)

◎ 菊花

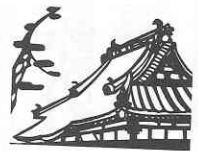
長安 顕義さん(横島)

住谷 大志さん(入江)

還浄(げんじょう)

藤井喜美雄	6	吉	浜
山本 晴美	2	浅	口市
杉本フサ子	7	浅	口市
三宅 桃子	7	吉	浜
亀岡 勇	7	浅	口市
大山 正子	8	笠	岡
下鶴瀬治義	8	西	大島
松田 京子	8	生	江浜
石井 清一	8	吉	浜
内田 孝	2	里	庄町
大橋フミエ	7	笠	岡
寺田 昭廣	9	倉	敷市
岡田 麻衣	9	里	庄町
岩崎 富雄	9	浅	口市
松田 宏俊	9	大	井南
野田須美江	9	浅	口市
亀岡 愼章	9	小	坂東
水原 道雄	10	岡	山市
	14		
	30		
	105		
	74		
	82		
	77		
	92		
	25		
	84		
	98		
	85		
	93		
	83		
	85		
	93		
	103		
	106		
	102		
	69		
	72		

浄土真宗



教えと

そのあゆみ

仏教の教えとそのあゆみ

七高僧のご事績(一)

お釈迦さまと親鸞聖人との間には、二千余年の歳月と、インドから日本までの遠い隔たりがありますが、ちょうど山の頂から一滴の水が大海に注ぐまでには、長い長い川の流れがあつて運ばれてくるのと同じように、多くの僧侶がたのご功績がありました。

親鸞聖人は、この高僧の中でも、特にお念仏の本流として七人の方々を挙げられ「七高僧」として尊崇されたのです。

一、龍樹菩薩



龍樹(ナーガールジュナ)
チベット所伝

お釈迦さまが『楞伽經』というお経の中で、「私がなくなつて数

百年後に一人の菩薩が南インドに現れるであろう」と

予言せられたとおり、滅後七百年の頃(紀元二世紀ごろ)南インドの貴族として生まれました。はじめ小乗教を学ばれて、その後、大乘の教えを聞かれましたが、『智度論』百巻をはじめとして「千部の論師」といわれるほど数多くの書物を著されました。そのうちで私たちにとつて一番大切なのは『十住毘婆沙論』の中の「易行品」

と「十二礼」です。

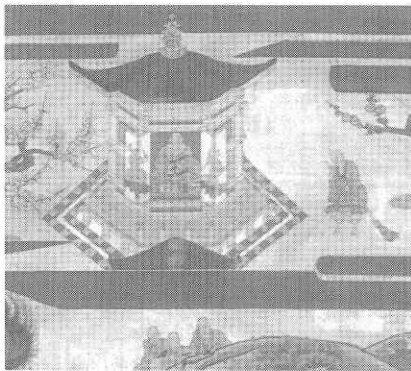
特に「さとり」を開く道について力をこめて述べられた「難行道」と「易行道」の二通りあるうちで、阿弥陀仏の本願にうちまかせる方法が易行道であり、ご本願のおいわれを聞く一念に「正定聚不退の位」に住するものですから、これはあたかも船に乗つて楽々と向う岸に渡るようなもので、まことに易い道であるとされたのです。智慧のない修行の足りない末代下根の私たちは、阿弥陀仏の弘誓の船にのせられていただくよりほかに

浄心寺の法宝物

その14

親鸞聖人御絵傳

全四幅 軸装
タテ180cm ヨコ90cm



第四幅六段目 大谷廟堂創立

もともとは親鸞聖人の孫の覚如上人(一二七〇〜一三五二)が親鸞聖人のご一生を文と絵で著した『親鸞伝絵』の、絵の部分を集めて、十五段、四幅に掛軸仕立てしたものです。本紙、第一一一号(平成二十七年五月刊)では第一段の「出家学道」の部分をご紹介しましたが、今号は第四軸第六図「廟堂創立」の様子です。中央のお堂は親鸞聖人がご往生されて十年後に建てられた大谷廟堂です。これが本願寺の原点です。当寺所蔵の絵傳は寛保元年(一七四一)に下付されたものです。

は、仏となる道はないとおすめくくださったことをよくよく考えましょう。

なお、当寺の住職は大学、大学院を通してこの龍樹の「著作の真偽性の研究」で博士号(文学)を修得しました。

除夜のつどい

12月31日(おみそか)
午後11時40分ころより
鐘楼前にて

過ぎ去るこの一年の反省と、新しく迎える年への期待をこめて、梵鐘を撞いていただきます。ご家族お揃いでお越しください。

新春のつどい

1月18日(水)
正午より

門信徒の皆さんが一堂に集まり、新年を寿ぎ、親睦を深める催しです。ご家族、近隣のみならず、ご誘い合わせご参加ください。

編集後記

秋気ようやく身に沁みる候となりました。今年の報恩講、除夜会、修正会等のご案内、秋季彼岸会・永代経法要等々諸般の報告をお知らせする、第117号をお届けします。

法要・法話などお寺でのご聴聞に励まれ尊いご縁に遇われますようお願い致します。(編集委員)